

福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年3月1日現在
(専技情報より抜粋)

◇麦類◇

1月中旬以降が高温で経過し11月中下旬播きの茎立期は2月4～5半旬(平年2月6半旬)で、平年より1週間程度早いです。出穂期も平年に比べ早くなることが予想されます。生育量は、平年並み～やや多いです。

排水溝さらえや排水口の整備等を徹底し、表面排水を促しましょう。茎立期後10日頃までに土入れを実施し、生育を確保しましょう。2回目の追肥(穂肥)が終わっていないほ場や葉色が落ちたほ場では基準量を速やかに施用しましょう。雑草が多いほ場では、早急に対策を実施しましょう。

◇イチゴ◇

2番果房の出荷量は、全体としては1月下旬から増加し、ピークは2月中下旬となりました。現在、収穫の終盤になってきており、3月上旬頃に終了の見込みです。全体としては平年並の生育であり、3番果房の出荷は、3月中旬以降に増加し、下旬頃にピークを迎える見込みです。ハダニ類の発生が多く、アザミウマ類も増加傾向です。うどんこ病の発生は平年並、灰色かび病の発生はやや少ないです。

天候と株の状態に応じた温度や電照管理、摘果などを徹底し、適正な草勢の維持に努めましょう。収穫が終了した果梗は速やかに除去しましょう。摘果や換気等、果実の品質低下防止対策を徹底しましょう。収穫株、親株の病害虫対策を徹底しましょう。

◇冬春トマト◇

9月中下旬定植では、生育は概ね平年並であり、現在5～6段の果実を収穫中です。温暖傾向で果実成熟も概ね順調であり、過度な着果負担も少なく、草勢も例年程には低下していません。うどんこ病が増加傾向。コナジラミ類の発生が散見されます。

誘引・整枝等の適時作業、天候と株の状態に応じた温度やかん水、肥培管理などを徹底し、適正な草勢の維持に努めましょう。病害虫対策を徹底しましょう。

◇スモモ◇

ハウス栽培は、休眠に必要な冬季の低温(7.2度以下800～1,000時間)が早期に確保され、平年並の2月上中旬にビニル被覆を実施しました。露地栽培は、せん定作業が終盤を迎えています。

被覆後～開花期までは、施設内を夜温0℃以上、昼間20℃以下で管理しましょう。受粉は、毛ばたきを使った交互受粉やミツバチを導入しましょう。

◇施設ギク◇

11～1月の販売金額は、1月の緊急事態宣言以降、白輪ギクの価格低迷(1月単価は前年比68%)のため、前年比86%と前月に比べ低下しました。

3月出荷作型の生育は、花芽分化以降晴天が続いているため概ね順調。草勢はやや強めで上位葉にボリュームがあります。今後は「春の彼岸」の需要に向けて出荷量が増加する見込みです。白さび病、アザミウマ類、ハダニ類の発生は、例年に比べ少ないです。

日差しが強くなると、葉の日焼けやしおれが発生しやすいので、ハウスの換気、適度なかん水などの対策を徹底しましょう。白さび病、ハダニ類や、えそ病などのウイルスを媒介するアザミウマ類が増加する時期なので、対策を徹底しましょう。

◇畜産◇

2月の豚枝肉価格は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大のため、輸入豚肉の慢性的な不足や国内の肉豚出荷頭数が前年割れで推移するなど供給量が減少し、対前年比114%となりました。鶏卵価格は、鳥インフルエンザの続発による供給量の減少や緊急事態宣言発出による家庭内消費の増加により、前月より45円/kg上昇しました。

引き続き鳥インフルエンザや豚熱（CSF）等の予防のため、野鳥やいのしし等の侵入対策、農場防疫、衛生管理等を徹底しましょう。